

^ 13
3703
21





下巻
廿八人

上巻
廿八人

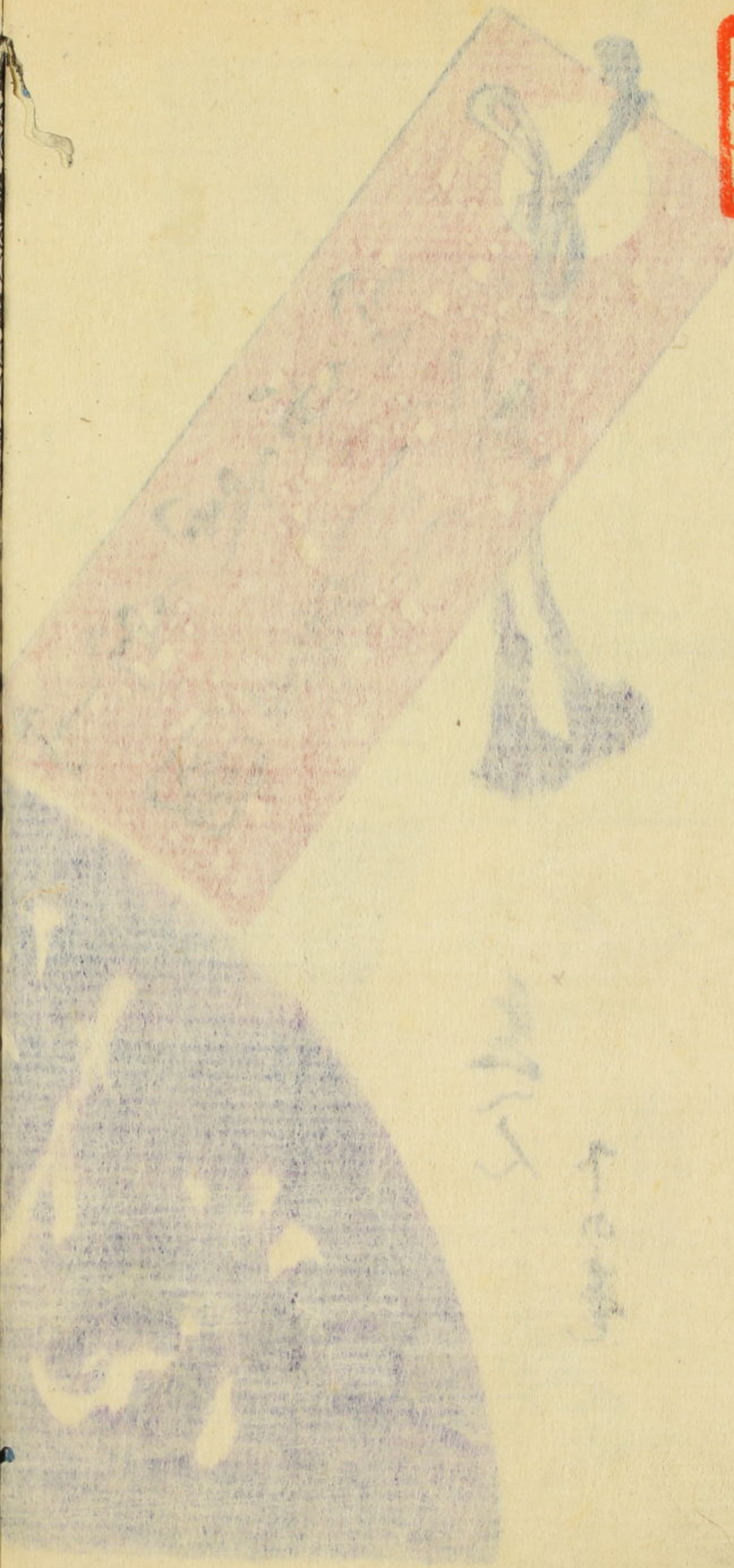
門へ13
號3703
卷 21

教草女房形氣世一編 山東菴京山翁遺師

故人京山翁教草を培く。稗史の鉢植とせしむ。言葉の花
美く實不味く多かれ。年々歳々必其蔓繁茂して。既よ世の巻を
重んず。故翁の遠行有て于粵根を断んとするを錦稿
草の主人遺減よ想ひ翁の男京水子み託して僥倖遺草
を得て。僕よ補綴せよといふ。是を花を襪襪よ包むの野為あれが
固辞做まを書拜微笑く。不知や驥の尾よ附まらる。蒼蠅も千
里を行よの一言よ。忽地僕と手を拍て。毫を嘗る緯とあられど。
謾よ清流を汚よの譏遁るよ。呀るらんし。

萬延二年酉春開鐫

鶴亭秀賀誌





唐土の天子周宣王

○わじ唐土周の代は宣王といふ天子ありて善夫人といふ美人を愛し玉ふと
 大方ありて皇后とほて常み側をたると夜淫酒みあひて
 あさましくて成急り玉ふと群臣を成歎きさす
 たてまつりてとさすみ聞入るるをさすみ尹吉甫と
 する忠臣のさすみあくるるを斯く
 去て天下の人氣みそわなはひみ
 国家乱るべしと死をあらせむ書
 をつりて御前へつくとその表をさす
 つるる宣王御酒宴のつらん

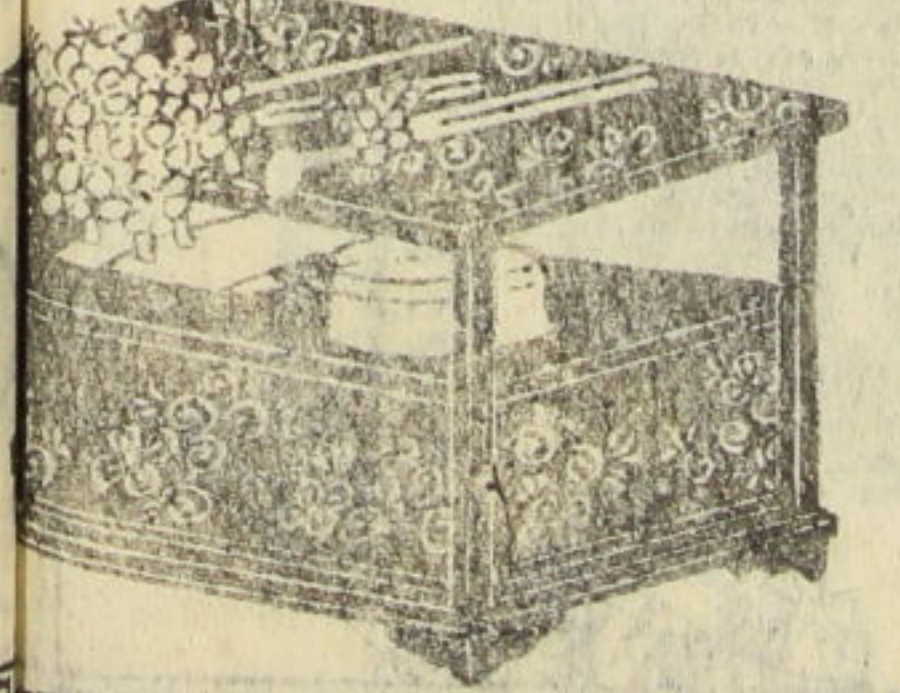
賢人 婦人 善人 皇

忠臣 尹吉甫

たせんとのまじり 設けり

大和の風俗をさかせる 眼を

つき半必有りたる大いなる世ありて表を大地へ
あがまそ玉ふを皇后の御心あけり侍女あそあり
さやぐ披き見玉ふの美皇后の御心あけり政事と
忘り武をいまれ昼夜酒のみあけり玉ふの御
小国の亡びをいれしを思ひあけりあけりあけり
美皇后をいれしを思ひあけりあけりあけり
なるを並々の女あけりあけりあけりあけり
美皇后の賢女あけりあけりあけりあけり
尹吉甫を賞し自
かばをぬき捨
衣裳をぬき
玉の前あけり
とみを其表を
よみを其表を
いれしを思ひあけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり



賢女の
行ひと悪女の
行ひとの差別を
人不知る賢女の
賢女の
傳をあけり
些勸善の意
を合むのみ

涙と共みいれしを思ひあけりあけりあけり
平くも心をいれしを思ひあけりあけりあけり
淫酒をいれしを思ひあけりあけりあけり
悦び美皇后の賢女あけりあけりあけり
名難有有意とあけりあけりあけり
と表裏あけりあけりあけりあけり
巴が氣随ふあけりあけりあけりあけり
失を其身あけりあけりあけりあけり
親をいれしを思ひあけりあけりあけりあけり
譚のあけりあけりあけりあけり
いれしを思ひあけりあけりあけりあけり
とみを其表を
よみを其表を
いれしを思ひあけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり
の御心あけりあけりあけりあけり

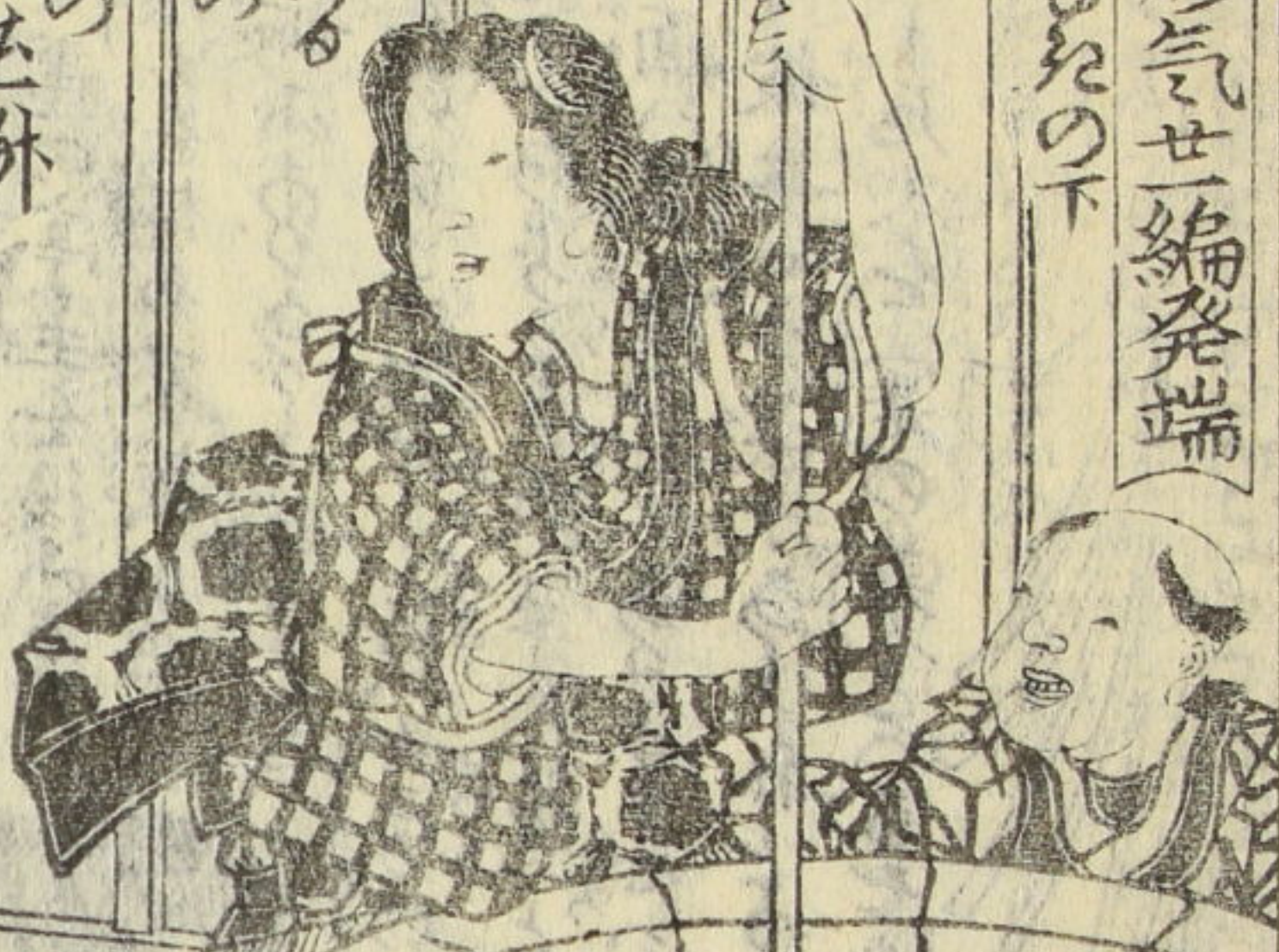


腰をいれしを思ひあけりあけりあけり
柳あけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけり
あけりあけりあけりあけり



教草女房形気せ編発端

あつかるるもたの下
よの町とつる
まきもめとの



あつかるるもたの下
よの町とつる
まきもめとの



あつかるるもたの下
よの町とつる
まきもめとの

あつかるるもたの下
よの町とつる
まきもめとの

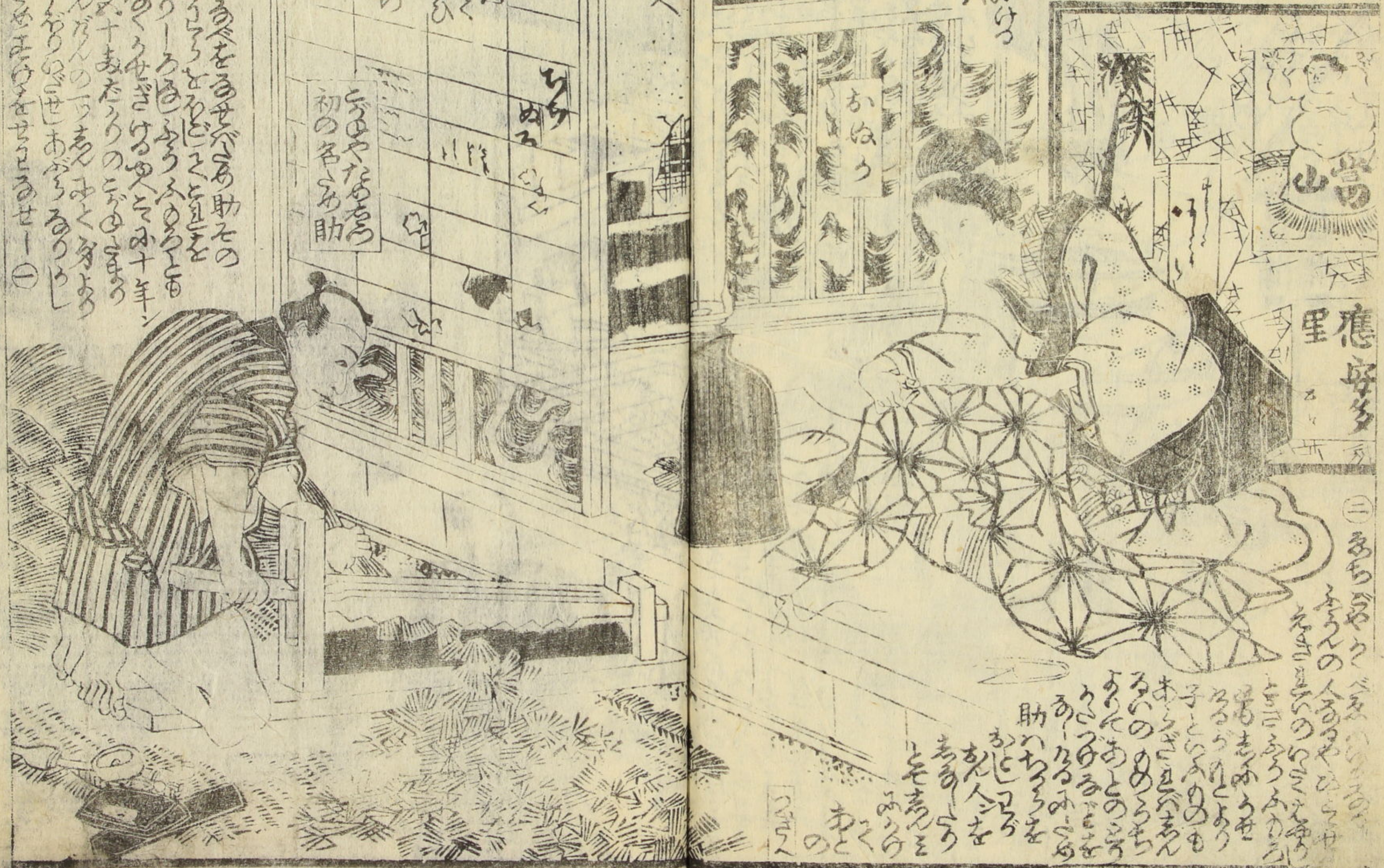


座せん

あつかるるもたの下
よの町とつる
まきもめとの

座せん

つぎうゆも
 うりなるゆ
 うべあいの
 せうちきとま
 づうのよま
 又あひま
 らのとりま
 大なるのま
 やをま
 させるま
 はふま
 るま
 りま
 めま



三
 二
 一

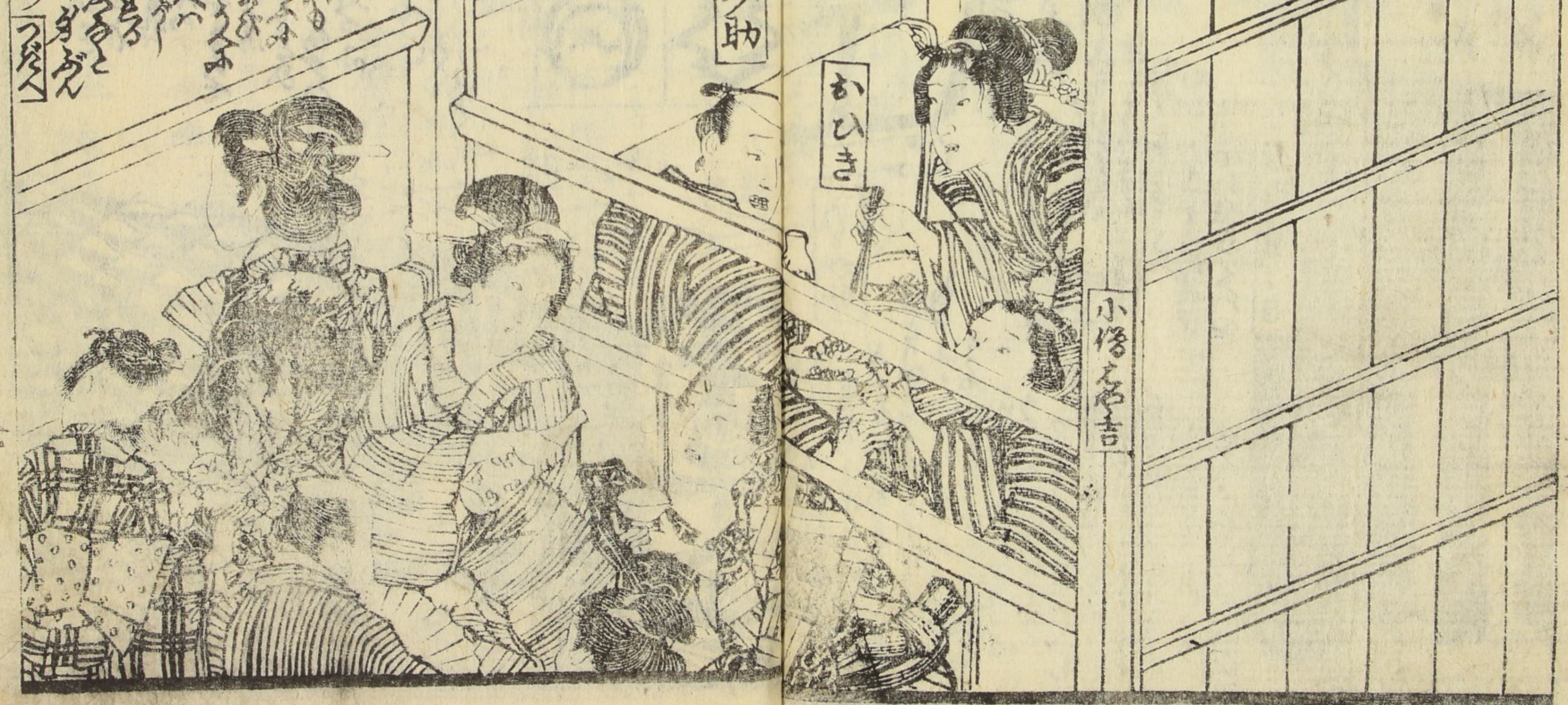
あち
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

あち
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十

あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう

あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう

あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう
あはれいせうのあはれいせう



のみ助

おひき

小僧を吉

女房お吉

春開鑄目録

庄地本錦繪問屋
 錦橋堂山田屋庄次郎板

花衣狐草紙
 三編 曹文作
 五編 芳虎画

童繪解萬國
 四編 曹文作
 二編 芳虎画

御所日記
 十二編 應賀作
 六尾 芳虎画

教草女房形氣
 十三編 秀賀作
 十四編 國貞画

御所櫻梅松録
 六編ヨリ
 十一編ナ
 鶴亭秀賀作
 蝶樓國貞画

重梅御前病氣の一段
 九編ハ松の前花
 御遊云右君御愁傷の譚
 長竹零落又ハ若君梅の本御再誕まをを詠み

鶴亭秀賀補綴
 蝶樓國貞画

身とくあつと
 めをいひ
 さへあむと
 ちの二十二人
 小ききあむ
 まをまもて
 あひあ
 せりをを
 なるみ
 めをい
 めをい

